

父の故郷大分訪問

比残留2世・利光カルロスさん

従兄弟ら親族が出迎え

人2世の利光カルロスさん(76)が19日、初めて父の故郷・大分市を訪れた。22日まで県内に滞在。父の生家や母校などを訪ねる。

残り日本人2世の日本国籍取得支援に取り組む日本財団とNPOが招いた。父和平さんと母デオグラシアさんの間にセブ島で誕生。第二次世界大戦でカルロスさんは祖父母の元に疎開したが、父は戦死、母と妹も消息不明。

となっている。迫害を恐れ母の姓と現地名で成長。伯父から「父は日本人」と聞かされ、親子3人で写った写真をもらった。

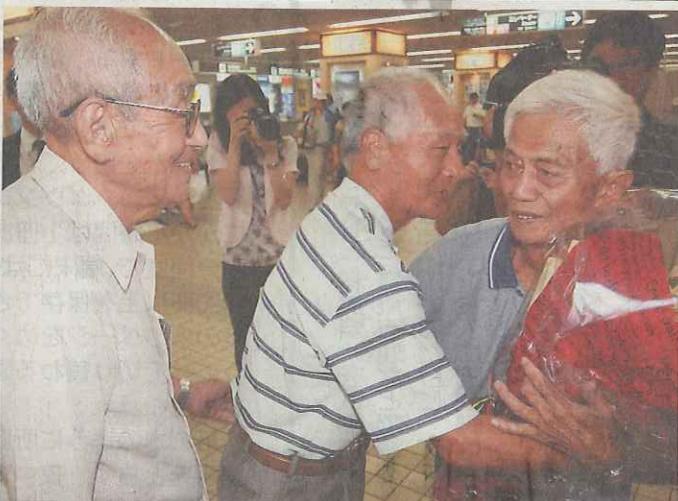
95年に現地の日系会を訪れ、日本財団などを訪ね、日本財団などに調査を依頼。今年、

父の名と出身地が分からず、親族に照会した。元毎日新聞社員、利光昭夫さん(72)は5月、カルロスさんから送られた写真を見て、「和平おじさんだ」と分かった。父寛平さんから生前、何度も見せ

られていたからだ。空港に降り立つと従兄弟の正人さん(81)ら5人が抱き合い喜んだ。「父の故郷。うれ

しい」と語るカルロスさん。5人も「長生きして人生をエンジョイしよう」と話しかけた。

【祝部幹雄】



大分空港に到着し、従兄弟の利光寛さん(中央)、正人さん(左)の歓迎を受けるカルロスさん